



海外  
交流

# CHINA

## 第12次全国市長会 代表市長中国訪問団

北京 ●

武漢 ● 蘇州 ● 上海



武漢市副市長を表敬訪問 (武漢市人民政府)



中国国家地震緊急救援センター (北京市) を視察



光大ごみ発電株式会社 (蘇州市) を視察



湖北省地震局の概要について説明を受ける訪問団 (湖北省地震局)



久保田農業機械蘇州株式会社を視察



蘇州市副市長を表敬訪問 (蘇州市吳宮泛太平洋酒店)



第12次全国市長会代表市長中国訪問団一行 (虹橋迎賓館)

全国市長会は、中日友好協会を通じて日中両国都市間の友好親善を図り、相互理解を深めるため、昭和55年に初の本会代表日中友好訪問団を派遣した。以来、同協会とともに日中両国市長の相互交流を推進している。

日中国交正常化40周年記念事業の一環として派遣された第12次全国市長会代表市長中国訪問団は、団長に会長の森・長岡市長、団員に高橋・留萌市長、三木・須坂市長、大豆生田・足利市長、神谷・安城市長、中村・紀の川市長、西岡・備前市長、新貝・中津市長および事務局から芳山事務総長ほか職員等3名の総勢12名で編成し、平成24年4月23日から28日までの6日間の日程で北京、武漢、蘇州、上海の各都市を訪問し、各地で熱烈的な歓迎を受けた。

北京市では、中日友好協会の王秀雲副会長を表敬した。公式訪問の武漢市では、秦軍副市長、蘇州市では、張跃进副市長、上海市では上海市人民对外友好協会の汪小澍常務副会長をそれぞれ表敬するとともに、各都市の防災対策や環境対策について意見交換を行った。特に、武漢、蘇州の各都市では、地震局、環境省、環境保護企業、日系企業などをそれぞれ視察するとともに、日中友好の促進を図った。

# 中国の視察を振り返って

第12次全国市長会代表市長中国訪問団団長

長岡市長

森

民夫

## はじめに

第12次全国市長会代表市長中国訪問団は、私をはじめ各ブロックの代表8名の市長さんと全国市長会事務局職員等4名からなる総勢12名で2012年4月23日の朝、羽田空港から北京へと出発しました。

北京市を訪問するといつも感じるのですが、自動車、バイク、電動機付自転車の多さには圧倒されます。市内の車の種類が圧倒的にフォルクスワーゲンを代表とする日本車以外の自動車と占められているということにも驚きました。いかに、日本車が中国進出に出遅れたかを物語っているものでした。

この日の午後は、中国や日本をはじめとした外国から進出したギャラリーが多く立地している798芸術区を視察し、丹羽宇一郎中華人民共和国駐在特命全権大使を表敬訪問しました。日本大使館は最近新しくなり、セキュリティも大変充実していました。夜には中日友好協会主催の歓迎会に招かれ、到着初日から充実した日程を消化しました。

## 北京市について

4月24日 北京市内は朝からあいにくの雨でした。しかし、雨によって草木たちや大気が洗われたようで、昨日の黄色のフィルターにかけられ

思いを共有することができました。ここは生まれ、新しい観光スポットになるでしょう。

## 蘇州市について

4月26日 晴天に恵まれ、武漢空港から上海（虹橋）空港へ向いました。現地到着時刻が1時間ほど遅れたため、昼食は急遽、バス車中のサンドイッチに変更。食事をとりながら、蘇州市の環境保護企業（光大環保）に向かいました。

ベルギーから技術導入した「ごみ処理発電施設」のプラントを視察しました。施設の整備計画は3期計画になっており、現在は2500t／日のごみ処理が可能となっているそうです。蘇州市全体では、4000t／日のごみが発生しているため、今年中には3550t／日の処理量を目指し整備することでした。中国では、ごみは焼却せずにそのまま埋め立て処理するのが現状ですが、このプラントは、広大な敷地を確保できる中国ならではの新事業であり、その事業規模には驚かされました。

プラントの1t当たりのごみ発電量は383KWhのため、その技術は日本には及ばないところです。しかし1日3班制でフル稼働していることから、1日の発電量は921MWにもなるそうです。ちなみに、総発電量のうち、自社工場での消費量は18%に過ぎず、残りの82%は国に売電して



蘇州市副市長を表敬訪問

ていた風景が、色鮮やかな風景として目の前に現れました。

午前中は、日中共同で設置し、東京消防庁などから優秀な人材が長期派遣されている国家地震緊急救援センターを視察しました。ここでは、震災時の応急対応能力や救助技術能力の強化を図るため、厳しい救助訓練が日々行われています。センター内の地震体験施設は市民にも開放しており、誰もが地震や津波の怖さを3D映像、激しく揺れる座席、水しぶきによりリアルに体験できます。

施設の整備費や運営費は中国が負担し、人員と資機材は日本が負担しているそうですが、日中共同プロジェクトの中でも大成功を収めている一つで、我々の次にも視察者が列をなしていました。

午後は、自治体国際化協会（CLAIR／クレア）北京事務所を訪問し、日中の姉妹都市の締結状況や交流の実態などについて説明を受けた後、現地職員と意見を交わしました。夕食は北京でも有名店と言われる那家小館で美味しくいただきました。この店は遅くまで順番待ちが続いていました。

## 武漢市について

4月25日 早朝起床。空路、武漢市へ向かいました。

曇り空でしたが、北京市とは違った、落ち着いたと重厚さを感じる街並みの中、武漢市人民政府主催歓迎会会場に向かいました。大円卓の立

いるとの報告もありました。この事業は、まさに壮大な国土のなかで十分なスケールメリットを最大限に活用している成功事例と言え、さらなる事業拡大の可能性を感じました。

その後引き続き地震施設を視察して、意見交換を行いました。基本的に中国は巨大地震を想定していないとのことでした。

夜は、蘇州市人民政府（副市長）と会見し、引き続き歓迎会に移りました。副市長はお酒が大変強く、この度の訪中の中で最高に盛り上がりしました。

4月27日 この日も晴天に恵まれ、午前中、日本でも、除夜の鐘で有名な蘇州の「寒山寺」を視察しました。引き続き、田植え機を主力製品とする農機具メーカーの蘇州市クボタ工場を視察し、その規模の大きさに圧倒させられました。

## 上海市について

その後、蘇州での視察を終え、バスにて上海に向かいました。その移動中、協会職員から上海の興味深い交通事情を聞くことができました。それは、上海で車のナンバープレートを取得するには、オークションに参加しなくてはならず、その価格は、今や日本円で100万円にも及ぶとのことでした。つまり、自動車本体価格にさらに100万円を上乗せしないと自分の車に乗れないという事実で、それだけの規制をしなければならぬという交通渋滞の深刻さを知りました。しかし皮肉なことに、大金を使って取得した車なので乗らなければ損をするという意識がドライバーに強く働き、渋滞解消にはつながっていないという交通政策の難しさを知ることができました。

上海に入ると、森ビルをはじめとする高層ビル



武漢市副市長(中央)を表敬訪問

派な会場で昼間から大変な歓迎を受けました。午後は、湖北省地震局、環境省と表敬し、それぞれの取り組みをお聞きするとともに、意見交換を行いました。当日はハードな日程であったため、視察団の疲労度も色濃く、夜に予定していた楚河漢街の視察は車窓からのものに変更しました。しかし団員の皆さまと、運河に沿った電飾夜景を観覧することができ、その感激した

群が立ち並ぶ浦東新区を車窓から視察しました。

午後は上海の豫園に出かけ、大変な人ごみの中でしたが、伝統的な建築物を見物するなど、団員思い思いの時間を過ごしました。

夜は、この度の視察を締めくくる上海市人民政府主催歓迎会に参加し、交流を深めました。その後、ホテルに近い日本の居酒屋で今回の訪中が無事終わったことを祝い、団員全員参加で久しぶりの日本酒で乾杯し、解団式を行いました。



上海市人民对外友好協会常務副会長を表敬訪問

## おわりに

4月28日 視察最終日も晴天に恵まれ、6日間にわたりお世話になった中国に別れを告げ、上海から羽田空港への組と関西空港への組に分かれて帰路につきました。

中国は確かに目覚ましい発展を遂げていますが、今後も13億人の国民を抱える国家として発展し続けるためには、克服すべき課題も多くあることを感じました。そのような中であっても、日本と中国は、世界の中で互いに大切なパートナーとしての関係を築いていくことが重要だと改めて思った次第です。